

オルブラ 通信



今回のオルガニスト
椎名雄一郎さん

バッハ演奏の
第一人者！



17年ぶりの
出演です♪

《PROFILE》

東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。第1回ダラス国際オルガンコンクール第2位。第12回ライプツィヒ・バッハ国際コンクール第3位。2002年NDR(北ドイツ放送局)音楽賞国際オルガンコンクール優勝。ウィーン国立音楽大学に留学し、満場一致の最優秀の成績で卒業。スイス、バーゼル・スコラカントルム音楽院に留学。日本のほか、スイス・オルガン・フェスティバルをはじめ、ドイツ、オーストリアを中心に欧州各地で演奏会を行なう。
現在、東北学院大学文学部教授、大学宗教主任。日本基督教団講美歌委員会委員。日本キリスト教団吉祥寺教会オルガニスト。

*** オルガニスト Interview ***

オルガンとの出会い、オルガニストを志すきっかけを教えてください。

私がオルガンと出会ったのは高校入学の時です。キリスト教系の高校だったため、入学式で初めてオルガンの音を聴き、興味をもちました。それまではピアノはしていましたが、オルガンという未知の世界に憧れました。

椎名さんが考えるオルガンの魅力は何でしょうか。

オルガンは一台一台全く異なる形を持っています。鍵盤の大きさも違いますし、本当に同じ楽器かと思うほどです。新しい楽器と出会うことは新たな世界との出会いでもあり、今回はお久しぶりに宮崎のオルガンを弾きますが、友人との久しぶりの再会のような感じです。

ご自身についてどんなオルガニストだと思われますか？

とても難しい質問なのですが、私自身はオルガンを弾き始めた時から、自身が楽しいと思う音楽、素敵だと感じる音楽を、聴いてくださる方と共有したいという想いで、オルガンを弾いています。普通の職業は教員ですので、言葉を使って様々な知識、内容を伝える仕事です。音楽の分野でも、オルガンを教える際にも、言葉で表現できないことは教えられないと考えています。しかし「美」というものはどんなに言葉を駆使しても、完全に共有することができません。なぜならば一人一人が「感じる」ことだからです。演奏会時も「言葉」で表現すること、「音」または「音楽」で感じていただくことを考えつつ、活動しています。

レジストレーション（音色選び）や演奏の際、何を大切にされていますか。

オルガン、そしてホールにはそれぞれ個性があります。その個性をどのように表現していくかを考えます。レジストレーション（音色選び）は、オルガン演奏の際とても重要な要素です。須藤宏氏^{※1}のオルガンは各地で演奏させていただいておりましたが、その中でも個性があります。彼のオルガンに対する考え、方向性、つまりオルガン建造に対する情熱を、どのように演奏者が引き出すのか、これがオルガニストの役目だと思えます。

※注1…当劇場のパイプオルガン製作者で、パイプオルガン製作の第一人者。

宮崎や劇場のオルガンの印象、思い出等がありますか。

昨年3月まで九州におりましたので、宮崎には何度も出張で伺いました。劇場のオルガンは大学院生時代に初めて演奏させていただきました。その時以来、焼酎も好きになり(笑)、その素晴らしい環境で、劇場のオルガンも育てていっているのではと思います。6月にうかがえることを楽しみにしています。

今回のプログラム・テーマ「バッハへのオマージュ」についてテーマに込められた想い、コンサートの聴きどころなどを教えてください。

今回は「バッハ」の音楽がどのように、19世紀の音楽家に影響を与えたかをテーマとしています。しかしあまり難しいことではなく、実際に音楽を聴いていただき、どのように聴衆の皆様が感じていただけるかを第一にプログラムを組みました。「バッハの音楽が、このように変化したのか!!!」と聴いて理解し、さらにオルガン音楽に興味を持っていただけると嬉しいです。

■公演情報は裏面へ >>>